

令和5年3月27日(月)
10:00~12:00
オンライン開催

過去データを用いた欠測値補完の検討について

◎資料1に基づき、過去データを用いた欠測値補完の検討について、試算結果及び事務局案について説明。

◎委員からの主な意見等

- ・ 統計の目的が、景気の変動を敏感に捉えるということであるならば、大きな景気変動について統計数値が適切に表現できるような手法(結合比補完)を採用した方がよいのではないか。
- ・ 安定的に統計を提供するための手法は、できる限り単純な方がよい。横置きと結合比による補完で大きな差はないと思われ、単純な横置き補完で決定的な問題はないとみられる。
- ・ 過去データを使うということは、欠測値補完の一つの方法で重要な改善になる。但し、今後とも結合比補完等の検討を続けるということは明確にしていきたい。
- ・ 設備投資や売上高等、影響が大きい項目については、結合比を加味した方がよい。但し、当面は横置き補完で仕方がないと思われ、結合比は将来的な課題でよい。
- ・ 過去データを使って補完できる数は未回収のうち3分の1と少ない。横置きと結合比の差は僅かであり、むしろ現行補完方法と両者との差が大きい感じがする。方法の単純さという点から横置き補完がよいと考えるが、いずれにしても現行の方法からは変えた方がよい。
- ・ 横置き補完であれば少なくとも会計上のバランスは、正しく推計されている。
- ・ 過去は、資本金が大きければ企業規模も大きかった。現在は資本金だけで同じような法人をみつけることが困難になってきているので、過去データがあるものは横置きした方がよいのではないか。
- ・ 過去データを用いた欠測値補完については、事務局案で進めさせて頂くこととする。結合比を乗じるなどの課題点については、将来的に改善を図ることとしたい。(事務局まとめ)

売上高等を用いた層化抽出の検討について

◎資料2に基づき、売上高等を用いた層化抽出の検討について、試算結果等を説明。

◎委員からの主な意見

- ・ 安定的な層化ができるかということが、売上高を層化に使うかどうかの最大のポイント。また売上高による層化については、2又は3層が限界かと思う。売上高を層化に使うと層が細かくなりすぎるので、現在の資本金規模区分をこれほど細かくしないという方法もある。
- ・ 売上高による層化の比率については、資本金階層の中で売上高がどういう分布をしているかによって変わる。但し、毎回比率を変更するのは大変なので、例えばサンプルサイズを同じようになるよう固定するなどの工夫が必要。
- ・ 層化区分と集計は違っていても構わない。過去の売上高別の集計は意味がないのでしない方がよい。

(以上)